

事業所名: グループホーム わらび苑

作成日: 平成 29 年 3 月 24 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	ご利用者が6人になり、空いた3部屋を地域貢献の場や職員の研修室等として活用予定にしている。系列ホームの職員も一緒にの、以前行われて研修を再開し、職員全体の更なるレベルアップに繋げていく予定である。	系列ホームを含めて、地域から一体的に捉えられているので、3ホームで統一した認知症ケアを実践できるような体制を整える。	策定している「職員研修実施要綱」に沿って、職員の経験年数等に応じた職場内研修を実施していく。	6 ヶ月
2	28	今後も更に、ご利用者の有する能力(できる事、できない事等)をアセスメントし、下ごしらえ(魚をさばく等)や配膳、洗濯物たたみ等の役割を計画的に追加すると共に、ご利用者個々の日課を3表に記入していく予定である。	開設以来10年以上経過し、認知症ケアのマンネリ化を防ぐため、利用者が積極的に活躍できる場面を作る。	介護計画書の援助内容に利用者が活躍できるような援助内を記載するとともに、3表を効果的に活用していく。	3 ヶ月
3	35	災害に備えて、カセットコンロ、米、缶詰は常時保管している。今後も系列ホームと連携し、3つのホームで賞味期間の時期をずらしながら、備蓄を増やしていく予定である。	一人1日3食の食材と飲料水をの3日分を備蓄するようにする。系列ホームと購入時期をずらすことで備蓄期間の調整を行っていく。	備蓄年数5年の物で、食品、飲料水についてその品名の選定、簡易トイレ等非常時に最低限必要な物品など系列ホームと調整して購入、その備蓄場所も考える。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月